

新宿区教育委員会会議録

令和元年第5回臨時会

令和元年7月19日

新宿区教育委員会

令和元年第5回新宿区教育委員会臨時会

日 時 令和元年7月19日(金)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 3時50分

場 所 新宿区役所6階第2委員会室

出席者

新宿区教育委員会

教 育 長	酒 井 敏 男	教育長職務代理者	菊 田 史 子
委 員	今 野 雅 裕	委 員	古 笛 恵 子
委 員	羽 原 清 雅	委 員	星 野 洋

説明のため出席した者の職氏名

次 長	村 上 道 明	教育調整課長	齊 藤 正 之
教科用図書審議委員会 委 員	小 林 力	教科用図書審議委員会 委 員	北 中 啓 勝
統括指導主事	坂 元 竜 二	社会科調査委員会 委 員 会 長	江 原 敦 史
家庭科調査委員会 委 員 会 長	宇 山 幸 宏	体育科調査委員会 委 員 会 長	牧 田 健 一

書記

教 育 調 整 課 教 主	平 明 生	教 育 調 整 課 教 管	勝 山 雄 太
------------------	-------	------------------	---------

## 議事日程

### 協 議

- 1 令和2年度使用新宿区立小学校教科用図書採択について（教育指導課主任指導主事）

---

◎ 開 会

○教育長 ただいまから、令和元年新宿区教育委員会第5回臨時会を開会いたします。

本日の会議には全員が出席しておりますので、定足数を満たしています。

本日の会議録署名者は、今野委員にお願いいたします。

---

◎ 協議1 令和2年度使用新宿区立小学校教科用図書の採択について

○教育長 本日は、議事はございません。

前回に引き続き、「協議1 令和2年度使用新宿区立小学校教科用図書の採択について」の協議を行います。

本日は、教育委員会会議規則第13条の規定に基づき、令和2年度使用新宿区立小学校教科用図書審議委員会の委員と、令和2年度新宿区立小学校教科用図書調査委員会の各教科委員長に出席いただいております。

まず、前回教育委員会で古笛委員が途中退室をされましたので、まだ御意見を伺っていない書写及び図画工作について、古笛委員から、採択に最もふさわしいと考える教科用図書についての御意見をお伺いしたいと思います。

なお、各教科調査委員会の調査結果を踏まえた教科用図書審議委員会における審議、検討の内容につきましては、前回の教育委員会で審議委員会から説明をいただいた内容と同じ説明を事前にさせていただいております。

それでは、古笛委員、いかがでしょうか。

○古笛委員 前は途中退席して大変申しわけありませんでした。

私としましては、教科書をよく見させていただきまして、また審議委員会の御説明を伺いまして、総合的に見て、書写については、学年に応じた工夫がなされていてわかりやすいので光村、また、図画工作については、狙いもはっきりわかりやすく、作品例数も多い日文がよいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、改めて確認させていただきます。

前回の教育委員会で各委員からいただいた御意見とあわせまして、書写については光村、図画工作については日文発行の教科用図書を採択の対象となる教科用図書の候補とするとい

うことで、よろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○**教育長** ありがとうございます。

それでは、本日の進め方についてお諮りしたいと思います。

専門的に調査検討を行った調査委員会の各教科委員長から、種目ごとに、指導要領の中での目標、教科の特性等、それから調査委員会における調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて説明を受け、質疑を行いたいと思います。

その後、本日出席の審議委員会委員から、種目ごとに審議委員会における審議の内容等について説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の候補の絞り込みを行います。

本日は、社会、地図、家庭、保健の各種目について協議を行います。

なお、本日協議する各種目の教科用図書については、8月2日に開催する予定の教育委員会定例会で採択を行うことを予定しています。

それでは、社会について、指導要領の中での目標、教科の特性等と、調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて御説明をお願いいたします。

○**社会科調査委員会委員長** 社会科調査委員会委員長を務めました江原でございます。よろしくをお願いいたします。

まず、社会科の目標ですが、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を迫りたり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指すものです。

(1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、さまざまな資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。

(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会へのかかわり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。

(3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々とともに生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

以上でございます。

今回の教科書を拝見いたしまして、各社とも学習指導要領の趣旨を踏まえ、問題解決的な学習が展開できるような工夫されたつくりとなっております。

簡単に各社の特色を申し上げます。

まず、東京書籍ですが、問題解決の過程をつかむ、調べる、まとめる、広げるという形で、非常にわかりやすく示されております。

続きまして教育出版でございますが、教育出版も同様に、問題解決の過程を明確に示しております。また、「まとめる」のコーナーにおいては、児童が「まとめる」という学習活動がわかりやすく展開できるような工夫がなされております。

続きまして日文中でございます。日文中も各ページに問いがきちんと明示されており、問題解決ができるような形になっております。また、「見方・考え方」という項目を起こして、子どもたちがそれを意識できるように工夫されておりました。

以上でございます。

○**教育長** 説明が終わりました。御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

○**羽原委員** 全体に見て、今、日本とアジア各国との関係は、ぎくしゃくも見えているし、戦争の結果、今日のぎくしゃくが起きていることが多く、その割にアジアについての触れ方が教科書全般に薄くて、取り上げている国も、サウジアラビアが入ってきたり、アメリカ、中国、ブラジルと。ブラジルは歴史的に関係が深いから、それはそれとしても、全体的にアジアという存在が、特に社会として時事問題に触れていこうという現状にしては、もうちょっとアジアという記述があるか、あるいはもうちょっとコラムのようなものがあるべきかなと。どの教科書を見てもアジアという視点が希薄じゃないかなと。僕は日本の立場からすると、教科書全体の心配というか懸念を持っているんです。その辺、そういう総体で調査委員会の先生に伺っても御迷惑かもしれませんが、印象としては、かなり違和感を持っていて、教科書は時代に沿っているのかなとちょっと疑問に思いました。

それと、教科書を見に来た方の意見の中に、東書の15ページ、基本的人権と国民の権利義務、これをリンクさせた記載はおかしいんじゃないかという指摘がありました。僕も、これは切り離して考えないと、性格がちょっと違うと思うんです。基本的人権というのは憲法の大前提としてあって、もちろん国民の義務も必要なんだけど、ちょっと扱い方が、問題のレベルが違うという感じで、これはひっかかるなと思いました。

それから、東書の6年生の57ページ、震災のところですね。「予想以上の地震、津波の被

害によって」原発が爆発事故を起こしたという、この表現は客観的なようだけれども、異論が出てやむを得ないんじゃないかなと。調査委員会に聞いてもしようがないかもしれないんですけども、そういう印象がありました。

さらに言うと、東書の6年生の130ページ、「日清戦争や日露戦争後、満州で日本が持っていた権利や利益を守らなければ日本は滅びる」という主張があったというくだりがありました。これは満州で日本が持っていた権利や利益という言い方でいいのかどうか。侵略という言葉はほとんど教科書は使わないけれども、旧満州の人たちの土地を奪ったケースも相当あるし、権利についてはこれを制約してきた法令を出しているわけだし、その辺からすると、こういうちょっとした表現なんだけれども、勉強として学ぶときに、なるべく冷静に位置づけて捉えるのが望ましいということからすると、日本的な視点がすぎるんじゃないかと。

社会科の幾つかの点については、日本的、日本人の立場、島国の日本人の感覚が少し強くて、戦争の相手国への配慮というのが表現の中にもうちょっと、ないわけじゃないんですけども、もうちょっと気を使う表現にしたほうがいい。

全体の流れが、やはり戦争はよろしくない、新宿区も平和教育を行っている以上は、おのれの非をある程度受け入れた反省がないと。結局、今の日韓関係も視点がずれているわけですね。向こうの国民の感じている点と、我々日本人が広義的に受けとめているところ、その違いをなるべく、子どものときには冷静に判断ができるようなデータなり表現なりを教科書はすべきだと思うんですね。たくさんのプロの方が協議した上でのことでしょうけれども、僕はそういう視点がもうちょっとあったらいいと思っています。

特に先生に質問しているわけじゃないですけども、何かおっしゃっても構わないことがあればどうぞ。

**○社会科調査委員会委員長** 今、先生のほうでお話しされたことにつきましては、調査委員会の中で話題に上ってはおりませんでした。アジアについての扱い方については、歴史の問題以外にも、例えば韓国については各社とも身近な国ということで取り上げて、調べ活動の内容として取り上げている部分はございますので、そのことに対応したお答えになるかなと思います。

また、ほかの点につきましては、そういう話題で話す部分はそれほど多くはなかったんですが、例えば領土問題につきましては、各社ともきちんと固有の領土という形で、日本の領土問題についての認識は共通して捉えてはいますけれども、教育出版の教科書については、どちらかというと未来志向的な表現があるというのは、調査委員会の中では話題に出たところ

ろでございます。ちょっと雑駁な説明で申しわけありません。

以上でございます。

○教育長 よろしいでしょうか。

ほかにどなたか御発言ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、他に御意見、御質問がなければ、次に地図について、同じように指導要領の中の目標、教科の特性、調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて、御説明をいただきたいと思います。

○社会科調査委員会委員長 地図については、目標は社会科の目標と同様ですので、割愛させていただきます。

今回の2社の特徴ですけれども、同様に3年生から取り扱うということを意識されたつくりになっておりました。

東京書籍のほうは、教科書の3年生の冒頭に地図を取り扱うということを明示して、地図を取り扱うということを子どもたちにもきちんとアナウンスしており、教科書と地図のリンクがなされておりました。

また、帝国書院のほうは、3年生から地図を取り扱うということで、冒頭に地図を取り扱うことについての説明がたくさん割かれており、導入の指導としては、大変教員が入りやすいような記載になっておりました。

簡単ですが、以上でございます。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、説明が終わりましたので、御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

○羽原委員 地図自体はいろいろな見方があって、それは特に触れようとは思わないんですが、地図の終わりのほうにある日本の統計、世界の統計、これは数字が古くないかと。つまり、帝国のほうは世界の統計が2016年でほぼ統一されていて、それから東書が2015年と。きょう、僕がインターネットで見たら、国連の数字は2018年のものが出ているんです。なので、ちょっと古いのではないか。これをつくる最初の時点がそれまでだったのかもしれないが、教科書会社でも2016年、2015年と分かれている。どういう形で修正しながらいくかわからないが、新しい数字の統計を、まだこれから印刷という段階があるから、それまでに更新できるのかなとは思っていますが、なるべくならサンプル自体、最新の数字を盛るのが親切というものじゃないかなという感じがしました。

それから、東京の人口やらの統計について、ふと思ったのは、これは23区の数字なんです



ね、東書も帝国も。なぜそこだけ23区なのか、ちょっとよくわからなかった。

それで、東京都の統計の資料を見てみたら、インターネットでちゃんと23区もあるし、都全体もある。なぜ全国の各都道府県という単位で見べきところが、23区だけなのかと。東書も帝国も両方同じことだから何か理由があるのかなと思いました。

いずれにしても、簡単に言えば茫漠とした数字だから、そんなに大したことないのかもしれないが、せっかく4年に1回つくる教科書なら、間違いのないほうがいいのかと思いました。

○**社会科調査委員会委員長** 今お話しされたことについて、細かい議論は調査委員会のほうではなされませんでした。ですので、ここで明快なお答えができなくて申しわけないんですが、以上でございます。

○**羽原委員** なるべく議論しておいてください。

○**小林教科用図書審議委員会委員** 本来であれば、審議委員会の発言はこちらでなすべきではないかもしれませんが、実は審議委員会の中で、ただ今の統計の件につきましては話題に上りまして、発行者のほうに確認したことがございますので、紹介をさせていただいてよろしいでしょうか。

○**教育長** お願いします。

○**小林教科用図書審議委員会委員** 統計の資料につきましては、発行者ともに毎年見直しているということで、実際には子どもたちに配本されるまでには最新のものをに入れていくと。ただ、全ての統計資料を差しかえるということではなくて、その統計資料が古いから、例えば1位とか2位の順位が変わってしまって、状況が正しく把握できないものについては、積極的に変更していくというような回答を得たところでございます。

以上でございます。

○**羽原委員** あえて言いますけれども、4年間だから、もしそのままの数字を使うとしたら、新しい数字がありながら古いままの教育をしていくことに問題がないのかと言いたいですね。だから、僕は、今の説明については、余り快く納得はしません。やはり直そうと、統計だからなるべく新しいものを使おうと、その姿勢のほうが僕は当然だと思っているんです。

○**教育長** ほかに御意見、御質問等ございますでしょうか。

ないようであれば、次に家庭について、同じく指導要領の目的、それから教科の特性、調査の内容、評価を決定する上での議論等についての御説明をお願いいたします。

○**家庭科調査委員会委員長** それでは、家庭科の調査委員長を仰せつかりました宇山です。よ

ろしくお願いいたします。

家庭科の目標でございます。生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) として、家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。

(2) 日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、さまざまな解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。

(3) 家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々とのかかわりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

以上が学習指導要領における家庭科の目標でございます。

この趣旨にのっとり、2社の教科書について調査報告をした結果の概要をお伝えしたいと思います。

まず東書です。東書については、版がA3判ということで、その利点を生かして、写真・挿絵等が非常に大きく、見やすく構成されているということが特徴として挙げられます。

また、「プロに聞く」コーナー、これは12ページ等にありますが、コラムが充実していること、それからキャリア教育にもつながるといような御意見がありました。

それから、日本の伝統文化というの、同じく12ページに示されておりますが、そのようなことも触れているのがよいという評価が特徴として挙げられます。

また、「できたかな？」というチェックを活用するなどして、自分の生活を振り返ることができるということも挙げられておりました。

続いて開隆堂です。開隆堂につきましては、全体的に単元配列、構成がよく、見開き2ページで確認できる工夫が見られているということが挙げられます。

また、プログラミングに関する教材が128ページ等に掲載されているところです。それから、チャレンジコーナーということで、子どもたちの実態に合うような、興味を引き出せるようなコラムがあるということで、例えば57ページ等にも示されております。

また、「レッツトライ」というスモールステップで学びの流れが書いてあるものがあるのですが、そこも具体的でわかりやすいという意見が出ております。

また、裏表紙ですけれども、野菜の切り方がわかりやすく写真掲載されていて、教科書を開かないでも、裏に書いてある利点を生かし、スペースを活用して調理ができるというよう

な具体的な意見が出ておりました。

私からの報告は以上でございます。

○**教育長** ありがとうございます。

それでは、説明が終わりましたので、御意見、御質問があればお願いいたします。いかがでしょうか。

○**羽原委員** 家庭科の教科書の著者あるいは著作関係者、これはほとんど女性で、ほかの教科書は男性が上位になっているから、家庭科ぐらい女性で、という思いかもしれませんが、僕はやはり男性の目と女性の目、それぞれちょっと違うものがあって、もうちょっと男性の現場の先生方が参加して、家庭科というのは、自立していく上では男性も女性もある程度は必要だ、という趣旨だと思うので、もうちょっと男性の視点が入ってくると、表現や何かがもうちょっと変わってきて、そのほうが社会的にはいいんじゃないかなと。印象ですけれども。前日も、4年前にも言って、どう変わるかなと思って楽しみにしていたけれども、頑固に変わっていないので、もう一回話しました。

○**家庭科調査委員会委員長** 特に、今の御意見について調査委員会で審議されたことはありませんでした。

以上でございます。

○**教育長** ほかに御意見、御質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、他に御意見、御質問がなければ、保健について、同じく指導要領上の目標、教科の特性、調査の内容、その他評価を決定するまでの議論などについて御説明ください。

○**体育科調査委員会委員長** 保健の調査委員長を務めました牧田と申します。よろしくお願いいたします。

今回、指導要領の目標についてですけれども、体育や保健の見方・考え方を働かせて、主体的な課題解決を通して、心と体を一体として捉えて、生涯、心身の健康、保持増進、豊かなスポーツライフの実現のための資質・能力の育成というのが目標となっております。

体育、保健の見方・考え方についてですが、健康や安全に関する内容を捉えて生活できること、健康な生活環境と関連づけて考えるということが、見方・考え方として捉えております。

次に、内容ですけれども、身近な生活における健康や安全に関する内容を重視して、健康な生活を送る資質・能力を培うことから、保健のほうは5つの内容で考えられております。

1つ目は健康に過ごすための知識、そして健康な生活についての思考力・判断力・表現力。

2つ目が体の発育・発達、運動、食事、休養、睡眠の必要性についての知識、また、それについての思考力・判断力・表現力。3つ目が心の健康、不安・悩みへの対処、心の健康についての思考力・判断力・表現力。4つ目がけがの防止で、簡単な手当での知識・技能、5つ目が病気の予防についての思考力・判断力・表現力となっております。

保健領域ですが、ほかの体育の運動領域と関連づけることも必要であって、特に体ほぐし運動、体づくり運動との関連については、十分留意して内容を進めていく必要があると考えております。

それでは、各社についての報告です。

まず東京書籍です。東京書籍についてですが、非常に読みやすいというのが調査委員の意見でした。比較的余白が多いということでしょうか、非常に見やすいということでした。ただ、そこでちょっと話になったのは、ページ数が増えているということです。

それと、ワークシートが非常に充実していて、この1冊で全て網羅できるという話も出ていました。

さらに、ほかの会社は両開きで始まっているんですけども、東京書籍は片面から始めて、めくって展開していくという内容です。どうしてかなと考えていたんですが、ぱっと開いて全部書いてあると、子どもはその先まで読めちゃうんですけども、片面だけで、何をやるんだらうね、というふうに始まると、そこから子どもの考え方を引き出したり、課題解決への学習の道筋が立てられるようになっているのではないかと、という話がありました。

次は大日本です。大日本は、課題を見つけて、その解決に向けた活動展開が非常にわかりやすく、使いやすいのではないかとということが取り上げられておりました。

また、「あなたならどう伝えますか」というような欄が多々あって、主体的・対話的で深い学びの中の対話という部分も保健の学習の中でうまく使っていけるのではないかと話がありました。

次に文教社です。文教社については、ほかにももう一社あるんですけども、性的マイノリティー、LGBT等についての記述が追加されているなど、少し個性的な面がありました。友達と伝え合ったりする活動等について、また「わたしの〇〇宣言」というような内容で、単元をまとめていくというような工夫もされておりました。

次に光文です。光文についても、先ほどのとおり性的マイノリティーについて記述されております。また、スマートフォンやタブレットの使い方など、今の子どもの生活環境、現状についての取り扱いもあり、ちょっと目を引く内容がありました。また、全体的に非常にや

わらかいつくりになっていて、見やすいという意見も多々出ていました。

最後に学研です。学研についても、関連というコーナーがあったりして、それぞれ各教科との関連性、つながりをわかりやすく表現してあるところもありました。また、最後のほうに、「生活に生かしてみたいこと」という問いかけが必ずあって、進んで日常生活に取り組む態度を養っていくことができるのではないかという議論もありました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

説明が終わりました。御意見、御質問があればお願いいたします。

○星野委員 医師という立場でお伺いしたいんですけども、東京都医師会の学校医会等では、今度の指導要領でがん教育が入ってきたという話を聞いておりますが、どの教科書を見ても、がんの取り扱いがすごく少ないんですね。これに関しては、この程度という、何か指導があるのかどうか。我々にとっては、もうちょっと深いところまでやるような準備を進めていたんですけども、この教科書の内容を見ると、そんなにやらなくていいのかなという感じになってしまうんですね。その辺についてお伺いした上で、またもう2つぐらいお伺いしたいことがあるので、とりあえずお願いします。

○体育科調査委員会委員長 がん教育については、各教科書、取り上げていることは取り上げているんですけども、ここまでやりなさいというところまでは、指導要領で詳しくは出ておりませんで、指導内容についても、ここまでやらなければならないというものは特になく状況です。

ただ、がん教育について、やっている学校とやっていない学校とあると思うんですけども、今後、そういう内容については進めていく必要はあるのかなと。ちょっと教科書から離れてしまうんですけども、そういうような状況だと思います。

○主任指導主事 がん教育についてのお尋ねでしたので、改めて学習指導要領を確認させていただきます。

がん教育については、学習指導要領で大きく取り上げられるのは、来年採択をしていただく中学校のほうになりまして、小学校の位置づけといたしましては、病気の予防のところ、喫煙を長い間続けると、がんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについても触れるようにする、ということが記載されています。

ということですので、実際、各社5、6年生の教科書をごらんいただくと、喫煙のところ、主にごんについての扱いがあり、また、各社とも私も確認をさせていただきましたが、そ

の前段や単元の終わりのほうで、コラム的にがんを扱っているということになりますので、各社このような扱いになっているのかな、というふうに感じています。

以上でございます。

○**星野委員** 関連してですけれども、我々学校医会としましては、がんそのものの教育についてだけではなく、身内や知人ががん患者がいた場合に、その人たちがどう思っているかとか、どう対応したらいいかとか、その辺の対応もしようということで話を進めているんですね。

そうしますと、教科書から大きく外れてしまう可能性があるんですが、そういうことを実際にやっていいのかどうかという問題と、あとは、残念なことに子宮頸がんワクチン、これが唯一がんの予防ワクチンで、日本でも、まだ定期接種という形。積極的勧奨は今、トラブルの関係で保留されていますけれども、唯一がんを予防できるワクチンがあるはずなのに、それに関して全く触れていないのは、どういうことかなということをお伺いしたいんです。

○**体育科調査委員会委員長** 教科書から外れてしまう可能性もあるんですけれども、よろしいですか。

○**教育長** はい。

○**体育科調査委員会委員長** 非常に興味深いお話だと思います。ただ、保健は、病気の予防で4時間の扱いなんですけれども、その中でほかの内容についても取り扱っていく必要もあるので、その4時間の間にどれだけがんという病気について取り上げるかとなると、各校の教育課程を工夫していく必要が出てくるんだろうなと思います。

ただ、保健という授業の中でそれだけ取り上げてやるというのは、時間数的になかなか難しいのかなというふうには考えております。ただ、教育課程を工夫することで、がん教育をさらに時間をかけて行うことは、可能ではないかなというふうに個人的には思っています。

○**主任指導主事** 補足になりますけれども、各社教科書にも、基本的には各单元ごとに見開きでまとめられていたり、東京書籍については見開きではないんですけれども、それぞれ内容について押さえているんですけれども、コラム的に扱っていたり発展的な内容として扱っている部分も、各社工夫しているんだと思うんですね。がんについても同じような扱いでして、実際にはその発展の内容を保健の時間の中で発展的に取り扱って学習することもできますし、当然、区内の学校にも、健康ということをテーマにして、総合的な学習も含めて授業展開しているところもございますので、先ほど調査委員長からも話がありましたけれども、各学校の裁量の中で、がん教育について、がんに関連したことをどう扱うか、また、命の大切さということも含めて、道徳なんかでも扱ったりということは、今後工夫していくことができる

のかなというふうに考えています。

以上でございます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかに御質問、御意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

他に御意見、御質問がなければ、これで、種目ごとの指導要領の中での目標、教科の特性等、そして調査委員会における調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについての質疑を終了させていただきます。

ここで、各教科の調査委員会委員長には御退席いただきます。

委員長の皆様、御苦労さまでございました。ありがとうございました。

[各教科調査委員会委員長 退席]

○教育長 協議を続けます。

各教科の調査委員会における調査についての質疑は終了しましたので、ただいまから、教科用図書審議委員会の調査結果について、審議委員会委員から種目ごとに説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の候補の絞り込みを行います。

それでは、社会について、教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いいたします。

○北中教科用図書審議委員会委員 これより社会の審議、検討内容の説明をまいります。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは東書で、29校中19校がA評価でした。調査委員会の調査結果は、教出が総合評価でAでした。

審議委員会では教出をA評価としました。その理由、意見として、児童自身が学習を進める上で手助けとなる表記が多い。それに加えて、第3、4学年への活動内容の表記、時事との連続を意識した表記など、使いやすさ、わかりやすさを大切にしている。また、「まとめる」コーナーの表記が参考になる部分が多く、活動を考えやすい。また、審議委員会では、他社に対する意見として、東書、問題解決的な学習の進め方を意識し、つかむ、調べる、まとめる、ひろげるという見出しが示されており、児童も学習過程を意識しながら学ぶことができる。

最終的に、審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の結果等を踏まえて、教科書を確認して総合的に判断した結果、学校評価でA評価が2番目に多く、調査委員会調査でA評価であった教出をAと評価しました。

以上です。

○教育長 説明が終わりました。

御質問等があればお願いいたします。いかがでしょうか。

では私から。東京書籍は分冊になっていて、今の説明では教育出版がいいよという話ですけども、これは分冊になっていません。この辺についての評価というのは、何か議論はされたのでしょうか。

○北中教科用図書審議委員会委員 審議委員会のほうでは、分冊と合冊の2つを比較した結果、合冊が子どもの学習の深まりにとってはよいのではないかという意見が出ておりました。具体的には、社会科の場合、既習事項を振り返るということ。今回の改訂のポイントでもあります、見方・考え方を働かせるといった場合、前の単元で学んだ内容をもとに子どもが教科書を振り返りながら、その単元での学びに生かすことができるのではないか。そういった意味では合冊、つまり1冊にまとまっているほうが学習に使いやすいのではないかという意見が出ておりました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。ほかに何かございますでしょうか。

候補で上がっているのは、はっきり言えば東書と教育出版という話ですけども、先ほど羽原委員から質問がありましたけれども、アジアに対する記述で、それぞれここが特色だというようなことはありますでしょうか。

○北中教科用図書審議委員会委員 1つ特色としましては、いずれも6年生の国際編のところ  
に他国について調べるところがありますが、例えば東京書籍、6年生の政治・国際編。ページで言いますと76ページ以降です。前半では中国と日本、そして82ページ以降では韓国と日本ということで、アジアの主要な、かかわりも深い国の一つということで、大分厚く記載が  
されております。

それから、教出の場合ですと、6年生、235ページ。具体的には240ページ以降で、経済で  
つながりの深い中国、あるいは文化面、そういったところに関して中国を取り上げて記載を  
しております。そのほか、さまざまなテーマで近隣諸国、国土の広がりですとかそういった  
ところでも、他国のことは取り上げております。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかに御質問等ございますでしょうか。

○羽原委員 その関連で言いますと、先ほどの話をちょっと具体的に言いますと、日本と中国、



韓国、これは確かに大事なアジアの国だと思います。ただ、日本がこの島国から引っ越すことができない限りは、日中とか日韓というだけじゃなく、アジア全体を俯瞰するような関係、つまり新宿区に來ている外国籍の子どもたちはもっと広い枠のアジアです。中国人と韓国人だけじゃないわけです。3代目、4代目がいるし、それからネパールとかカンボジアとか、そういうところからも來ている。つまりアジアといえは中国と韓国ということじゃなく、もうちょっとグローバルな意味でのアジアとのかかわりというものがなければという意味なんです。

○北中教科用図書審議委員会委員 それでは、もう少し追加の説明をさせていただきます。

例えば、たくさんの国を扱っているという意味では、各社ともアジア各国の位置や国旗を多く取り上げております。例えば第4学年などでは、国際交流に取り組むまちということで他国を取り上げているのと、教出も同じように第4学年、国際交流が盛んなまちということで、ミャンマーやマレーシア、それから先ほど挙げた大韓民国や中華人民共和国、東書はベラルーシだとか韓国、アメリカ、中国、メキシコ、こういった国とのつながりを取り上げています。

それから、販売の仕事と関連させまして、商品がどのように外国の国々とつながっているのかというところで取り上げている場合もございます。あとは貿易面のつながり、中東ですとかアジアのほかの地域についても、経済面でも外国とさまざまなつながりがあるということは、各社取り上げております。

以上です。

○羽原委員 4年生の教科書の年代と6年生の年代は、かなり社会への関心とかが変わってくるし、刺激がなければいけない。何でフィリピンとかネパールとか、そうした人たちが新宿にいるのかなという視点、こういうものは政治的な背景、経済的な背景があつてのことだから、単に仲よくやっていますよ、貿易上はこうですよという、そういうレベルだけの教育では、どうなのか。新宿区の場合は民族教育的な部分をどう踏まえるかという観点、これは4年生にはちょっと難しいと思うし、6年生ぐらいならある程度は分かると思う。戦争の記述は5年生であるけれども、ちょっと戦争の歴史が学年に分散し過ぎていて、忘れた頃にまた出てくると。教科書をつくっている側からすると、そこはもう前に触れているよということなんだろうけれども、6年生の知識として判断力がついてきたときに与えられている材料という点も、そういう意味でのアジアというものを考えないと、それはもう4年のときに出ていますからというようなことを言われるとすると、ちょっとね。子どもたちがどういうふう

に伸びていったらいいか、あるいは国際社会にどういうふうに理解を持っていったらいいか。

なぜ、こんなに新宿区には各国から人が来ているかということに答えることでもあるわけだから、もっと改革的・発展的に考えていって欲しいですね。そういう擁護論だけを説明されると、ちょっと僕は違和感がある。改めたほうがいいと思うようなことも調査委員会なりで出ているんだったら、それはちゃんと言うべきであって、結論だけでここに書いてあります、あそこに書いてありますという、そういう分断したような説明だけではちょっと納得いかないですね。

○**統括指導主事** 実際の学校現場の授業で言いますと、例えば社会では、世界と日本とつながりの深い国のことを社会で幾つかの国を取り上げて行うんですが、例えばオリ・パラ教育も区の中では充実しております、その教科書に載っている国だけではなくて、アジアのほかの国を取り上げて、これは社会科の枠をはみ出で総合的な学習にいく場合もございますが、文化ですとか、それからスポーツ面ももちろんですが、あるいはそこにルーツのある方々を呼んで、子どもたちと交流したりですとか、実際には、確かに第6学年を中心に、そうした学習は区内の授業では盛んに行われているところではございます。

○**教育長** ほかに御意見、御質問等ございますでしょうか。

では、他に御意見、御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

○**菊田委員** 審議委員会の御意見も受けまして、私は教出がいいんじゃないのかなと思って見せていただきました。

教出の教科書ですけれども、全体的に本文の文字が非常に読みやすいなと思って見せていただきました。フォントの問題かと思うんですけれども、ほかの教科書と比べてフォントが大変見やすいなと思います。

そして、この構成なんですけれども、例えば6年生の教科書ですと、68ページに「学びのてびき」ということで導入を入れてあって、そして70ページからは年表が帯になっていて見やすいとか、あるいは地図も、興味をそそるようなイラストの地図が出ておりまして、そして中に出てくるイラストがきれいだなと思います。例えば75ページのイラストとかですと、本当に細やかに人々の動きが再現されているようなイラストがありまして、これは子どもの興味を引くだろうなと思います。

写真が非常にきれいで、細部までよく見えるなと思いました。例えば6年生の124ページの写真なんですけれども、長篠の戦いですが、やりなんかも一本一本よく見えて、大変きれ

いだなというふうに思いました。ほかの教科書でもこの写真が取り上げられているんですけども、少し光の加減か何かで見にくいんです。この写真は非常にきれいだなと思いました。

そして、各左側のページに「この時間の問い」というのが設けられていて、そして右側には次につなげようというところがあって、「この時間の問い」というので何を学ぶのかがはっきりするなというふうに思います。

各学校を見せていただくことがよくありますけれども、その時間、一体何を学ぶのかということがなかなか明確になりにくい中で、こうやって教科書に「この時間の問い」というのがはっきり投げかけてあると、非常に学びやすいなと思いました。私、歴史が非常に苦手なんですけれども、この教科書は大変興味を持って学べるんじゃないかなと思いたので、教出がいいんじゃないかなと思います。

以上です。

○今野委員 私は、東京書籍と教育出版、それぞれ小学校5年生のところを中心に読ませていただきました。結論的には東京書籍のほうがいいかなと思っております。

1つの理由は、導入に非常にすぐれた工夫があって学習が進みやすいだろうと。子どもの立場、自分が子どもだったらという気持ちで読んだんですけども、非常に勉強しやすいなという印象を持ちました。

例えば小5の上ですけども、66ページ、これが第2章で生活と食料生産の始まる部分ですけども、各地の学校給食が出ていて、郷土食でいろいろ地域によって違うよというふうな話です。食べ物について学校での身近なところをついた上で、68ページ、スーパーのチラシ、加工はしてあるんでしょうけれども、ほぼ実際の流れているようなチラシがどどどどと出て、インパクトもあるわけですけども、おもしろいのは、それぞれみんなでスーパーのチラシを持ち寄って、食品ごとに切り取って産地を確認して、白地図に貼りましょうという作業が提示されているんですね。これはとてもおもしろくて、身近なスーパーのチラシを教材として白地図に貼ることによって、食料生産の地域性がわかるし、輸入されているものもわかるし、流通にも多分思いが至るしということで、とても社会科らしい、おもしろい、わくわくするような授業になるんじゃないかなという感じがしました。後に続く農産品のこととか、米づくりとか、非常につながりやすいんじゃないかなと思います。

教育出版も同じようなことがあるんですけども、米袋で産地を調べるということで、ちょっと地味なんですね。

それから、導入の工夫というところでちょっと気になったのが、教育出版の5年生の最初

のところですけども、世界の中の国土日本ということで、6ページからずっと世界地図が出たりして、その中の日本は、というようなことなんですけれども、最初の「世界地図を眺めてみましょう」と「地球儀を見ましょう」って余り意味のない写真かなど。何かいろいろとアクティブ使って、という感じなんだと思うんですけども。

8ページ以降が具体的に始まるんですけども、いきなりワールドツアー、旅行のプランみたいのが前提になって、そして地図の中で、これから勉強するんだろうにと思いながら、穴埋め問題がいきなり出ているというふうなことで、ちょつとな、と思いました。

それから、次のページでしたか、地球儀でテープを使って方向とか距離を読み取るというふうなこと。それなりに意味はあるんだと思うんですけども、あれやこれやの作業が最初に出てきていて、注意力が集中しないんじゃないかなというおそれも感じました。

それから、12ページからは「国土の姿」というふうなことになってきて、さらに14、15ページで、やや唐突に領土問題の話になるんですけども、肝心の国土がどこまでというのは、14ページの一番下にあるんですけども、「気づいたことを話し合しましょう」で終わっているんですね。その後、詳しく領土問題というふうになっていて、導入の流れはちょっとどうなのかなと思いました。

これに比べて東京書籍のほうは、オーソドックスですけども、世界地図が出ていて、国旗と国と写真が出ていて、それからその後、国土の領土の範囲、領海等々が詳しく出ていて、特に13ページだと、「東西南北、はじっこはどこでしょう」というふうなことで始まって、その後、最後に14ページ、領土問題という流れに来るので、すごく勉強しやすいんじゃないかなというのが1点です。

それからもう1点は、領土問題の記述の関係ですけども、東京書籍のほうはすごく簡潔に書いてあって、ポイントだけスパッと出ています。最後は「領土問題は存在しません」だけで終わっていて、もうちょっといろいろ記述があったほうがいいのになとは思いますが、政府の見解を中心に非常に簡潔に書いてあるわけです。

教育出版のほうは15ページ、先ほどのお話では、未来志向というような言葉が出ていたもので、そういう配慮があって書かれているんだろうなと思いますけれども、ただ、ややもすると、例えば15ページの真ん中あたりで、竹島の関係では、「韓国が自国の領土であると主張し、不法な占拠を続けています」と。それから尖閣のほうでは、これこれが日本の立場ですが、中国も自国の領土と主張しているということで、バランスのとれたというか、そういう書き方になっています。間違いではないし、そうだなとも思うんですけども、ここに

は右側のほうに女の子の吹き出しで、領土問題も大切だけど、仲よくしていきたいよねと。どっちかという後ろにウエートがある感じで、それも一つの見方だとは思いますが、領土そのものの重要性というものを理解するときに、いろいろな国と仲良くするのは当然だけれども、領土問題も大事だよ、というようなことなのではないかなと。そういう面からすると、未来志向ということですが、どうなのかなという感じがしました。

それと、記述のところ、細かいところなんですけれども、15ページの冒頭、択捉島もふくめこれこれの島々は、とあります。普通、4つ順番に並べるところなんですけれども、「択捉島もふくめ」というのが、どうしてこういう書き方になるのかちょっと違和感を感じました。上の写真を見ると遠くにあるから…、そんなことも関係ないでしょうかね。ちょっと含みのある言い方で、かえってわかりにくいな、というふうな思いもしました。そこはいろいろ意見のあるところかもしれませんが、記述としてはむしろ簡明過ぎるかもしれませんが、そのところは東書のほうがいいかなというのが私の率直な感じでございます。

ということで、東京書籍のほうがいいのではないかなというのが私の意見でございます。

**○古笛委員** 学校調査と調査委員会、審議委員会とで分かれたとおり、とても難しかったですけれども、私は結論として教出にしました。

形式的なところからなんですけれども、特に6年生を中心に拝見させていただいたのですが、6年生の教科書、東京書籍のほうが、歴史編と政治・国際編に分かれていると。確かに読んでいて、分かれているなという気はしたんですけれども、6年生になって社会を知るときに、明確に歴史と、それから政治・国際という形で分けて、アプローチするのがいいのかなのかというところで、教科書としては、もっと広く1冊という形が、形式面にしても、内容を進めていく面にしてもいいのではないかな、というのが1つです。

それから、菊田委員からも話が出ていたんですけれども、「この時間の問い」というのがあって、そして授業があって、そして次につなげよう。ちょっとしたところなんですけれども、こういったアプローチができると、予習・復習というわけではないんですけれども、次につながる形で何となく理解しやすいのかなというところがありました。

それから、これは東京書籍のほうにも、それから教出のほうにもあったんですけれども、キーワードとか言葉というところでポイントの解説がなされていて、これはそれぞれ両方ともとてもわかりやすくよかったんですけれども、そんな形のアプローチのところ、ここはどっちもいいなと思ったところです。

あと、教出のほうで、「まとめる」というところがわかりやすいのかなと思いましたので、

教科書としては教出でいいかなという結論になりました。

○**星野委員** やはり分野によってそれぞれ得意・不得意があるのかなと思いました。地理系では東京書籍が比較的わかりやすいなと思ったり、政治とか憲法に関しては教出のほうがわかりやすかったりと、内容に関してはいまだに迷っている部分があります。

ただ、歴史に関して、年号を知りたいときに、教出は載っていないものがあるんですね。例えば17条憲法とか冠位十二階、本文中にはあるんですけども、そのページのどこをめくっても、何年というのは載っていないんです。もしかしたら指導しなくてもいい年号かもしれないんですけども、知りたい人間にとっては全然記載がないと困ってしまう。その点は、東京書籍は同じページの中にずらっと、何は何年、何は何年という記載があるので、そういう点では見やすいかなと思いました。

また、まとめやその他に関しましては、今まで意見が出ているとおりで、教出はわかりやすいなど。

あと、最終のまとめでは、どちらかという、東京書籍は自分で全体的にまとめなきゃいけないような部分が多い感じでしたけれども、教出の場合は穴埋め形式が多くて、比較的理解しにくい子も簡単にアプローチできるのかなと思いました。

その辺、どちらかにしろと言われるとちょっと困ってしまうんですけども、歴史を除けば、教出がいいのかなと思いました。

○**羽原委員** さっきもちょっと言ったんですが、どの教科書というよりも、やっぱりアジアに足場を置くという姿勢をもうちょっと、教科書の編集自体の中でそういう視点があったほうがいいという感じです。あるいは戦争の問題も各学年で触れたりするから、こま切れっぽいのが、6年生の段階では、戦後、各国との平和関係を大切に進めてきたということと同時に、戦前の反省というものを、もうちょっと表現の中で力点を置いてもいいんじゃないかなと思います。

というのは、これからまだ、北朝鮮の国交回復の問題が残っているわけだし、アジア諸国が発展してきたときに日本とバッティングするようなことがある。そういうことからすると、小学校高学年から中学に行く子どもたちには、仲よくやっていますということを断片的に教科書に載せればいいということではなくて、日本の反省というものはっきりさせる。それから日本の利益だけじゃなくて、国際感覚からして、グローバルに見てどうなのかという視点、そういう姿勢について、表現の中でもうちょっと工夫しなければいけないんじゃないかなという、ほかの教科書を含めながらそういう印象を持っています。

結論から言うと僕は教出のほうかなと。あまり差異もないなと思う部分もありますが、1つ推さなきゃいかんということなら教出かなと思います。

というのは、先ほど言ったように、東書は、手練れというのか、なれてきているから継続性でそうなっているのか、イロハのイからもう一回たたき直してみようという姿勢がちょっと薄らいだのかなと思いますが、さっき触れたことをもう一度言うと、基本的人権と国民の権利義務とは別の問題であるし、それから、原発の問題をどう捉えるかというところに、政府答弁的な表現が教科書に盛り過ぎていないか、もうちょっと迷う余地がある問題ではないかと思います。

それからもう一つ、東書で申し上げたような、旧満州で日本が持っていた権利や利益を守る、第三者的な発言の中にあるということではありますが、やはり侵略ということからすれば、奪ったという部分が非常に大きいわけです。これは宗教団体が満州に、農村で貧しい家庭の中から子どもを含めて送り込んだというような、キリスト教もやったし、天理教もやっている、そういうようなことで向こうへ行って、やっとな荒地を耕した満州の土地を安く買いたたいたり、場合によっては収奪があって土地を手に入れて、日本から移民した人たちに提供する。

こういうところは、はっきり武力によって奪ったというニュアンスのものは示しておかないと、権利や利益を守るためという言い方で日中戦争の満州の部分をつまみ食いしていき、将来的に子どもたちの知識の中に非常に大きいひずみを残すんだらうと。もうちょっと冷静な姿勢で歴史を見る、あるいは国際関係を見るという、その素地が小学校6年生ぐらいに始まるわけだから、そのところはきちんとしておかなければ、教科書全体の問題として重要じゃないかなと。

一新宿区でそんなことを言ってみてもしょうがないということかもしれないけれども、そういう将来の子どもたちが、国際関係を日本の立場、日本の利益だけで見ていくのではなくて、もうちょっとグローバルにクールに見ていく。これが島国の日本人にとっては欠けがちなところで、もうちょっと教科書も大きい視点を持ったほうがいいと思っています。

というようなことで、教出に問題がないわけではないとは思いますが、東書と比べてどちらか1つというなら、教出という感じであります。

○教育長 ありがとうございます。

私は、結論から言うと東京書籍を推したいと思います。まとめのところで、東京書籍は括弧書きとか、文章が半分でき上がっているところに書き込ませる形なんですよね。それは要

するにアクティブ・ラーニングなどと言っているときに、ちょっと違うのかなと。「なぜならば、これとこれなどの輸入の割合が多かったからです」というような穴埋め形式の問題というのが、今求められている教科の進め方とは逆行しているように思うんです。そういうのは、今の子どもたちとアクティブ・ラーニングをやって、一つの答えを導き出す過程が大切だと言っているときに、過程を先取りしているような形だと。それに比べれば、東書のほうが厄介かもしれなくて、教える先生方の技量が求められるけれども、そういう意味では、まとめ方のところの話なんかは東書のほうがいいのかなと私は思います。

したがいまして、意見が割れてございますけれども、予備日を設けていますので、再度検討をするということで、本日は1者には絞り込まずに、東京書籍と教育出版、この2つをとりあえずの候補として、もう一度それぞれ見直していただいて、次回以降、1者に絞り込みをしたいなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。よろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 ありがとうございます。

それでは、次に地図についてです。地図について、教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いいたします。

○北中教科用図書審議委員会委員 それでは、地図について審議、検討内容を説明いたします。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは帝国で、29校中20校がA評価でした。調査委員会の調査結果は帝国が総合評価でAでした。

審議委員会では、帝国をA評価としました。その理由として、巻頭の内容が初めて地図を扱う第3学年にとって学びやすい。都道府県地図には、特産の農作物だけではなく各地域で盛んな工業製品等も記載されており、さまざまな単元の中で活用できる。

また、審議委員会では、他社に関する意見として、東書、高学年の内容にかかわる部分は、資料が見やすく、児童の調べ学習に生かすことができるなどがよい点として挙げられました。

最終的に、審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった帝国をAと評価しました。

以上です。

○教育長 説明が終わりましたが、御意見、御質問があればお願いしたいと思います。

○主任指導主事 先ほど羽原委員から御質問のございました、統計資料の東京が23区である理由を、今お時間がありましたので、発行者のほうに確認をさせていただきました。ちょっと



わかりにくいところがありますので、もしよろしければ、今から申し上げるページをごらんいただきたいと思っています。

東京書籍で言うところと83ページ、帝国で言いますと103ページになりますけれども、こちらのほうに「日本の統計」ということで、各都道府県の人口等が載っているかと思いますが、確認しましたところ、それぞれ都道府県名の右側の列には、都道府県の県庁所在地の人口ということが載せられていて、その2列目、右隣に「人口」とあるところについては、まず県の人口が載っていると。そして、その左側の県庁所在地については、東京都については、県庁の歴史ということ踏まえて、東京市であった23区の人口を載せているということで回答を得てございます。ですので、東京都については、県庁所在地は23区、そして人口については右側2列目を見ていただくと、東京都全体の人口が出ているということで回答を得ましたので、紹介をさせていただきました。

以上でございます。

○教育長 ありがとうございます。

○羽原委員 年次の古さについてはどうですか。

○主任指導主事 すみません、そこはまだ確認はできておりません。

○教育長 わかりました。

説明の追加は終わりましたけれども、御質問等はございますでしょうか。

今の統計のページで言うと、古さということもあるんだけれども、小数点以下まで書いてるところと書いていないところがあるんだけれども、それは特段問題はないですか。例えば、帝国書院は千人単位、札幌は194.7万人となっていて、もう片方は195万人となっている。このことについては、特段どちらでも構わないということでしょうか。

○統括指導主事 実際の授業の場面ですと、何万人単位までで教えることが多いです。特に都道府県という単位になりますと、細かな千人単位でということ扱うことはほとんどないのかなと思います。ただ、千人単位で示しているのがよくないというものではありません。その時点での人口を正しく表記しているという意味では、それはそれでデータとしてはよいのかなと思います。

○教育長 都道府県については帝国も一万人単位なんです。だけど県庁所在地のところについては千人単位で表示している。だから、それは全く評価に関係ないのか、評価すべき点なのかということですか。

○統括指導主事 一万人単位だけであっても、実際の指導には問題ないかと思いますが、ただ、

東京都とか自分の自治体だとより詳しく調べたり、そういう統計を見ることはあります。

○教育長 わかりました。

○主任指導主事 主任指導主事という立場で、これまでに行われた教科書採択の審議委員等での審議の内容について報告を受けたことはございますが、その際に、統計が、小数点がついているとか、細かいとか細かくないとかということについては、審議の中で話題になったということは報告を受けています。今回については話題にはなっていないようなのですが、これまでの採択のときに話題になったことがあるということは、報告を受けてございます。

○教育長 わかりました。

○羽原委員 その統計の問題だけれども、年次が違うから人口は違っていてもいい。しかし面積は変わってはいけない。したがって、それは人口密度にかかわってくるんだけど、人口の対比で、丹念に数えたわけじゃないが、計算上、この2冊の本の数字がちょっと違い過ぎないかと。年次による人口の差を踏まえても、人口密度への反映する数字がこのとおりのかなど。両方ばらばらと比べてみるとそんな疑問がある。

○教育長 確かに23区で違いますね、東京。

○羽原委員 あるいは噴火した西之島のところを入れたりとか、あるかもしれない。すぐにはいいんですけれども、折があったら聞いておいてください。特に選別にはかかわらないからいいんですけれども、そういう厳しき、数字に対するシビアな姿勢というのは割に大事だと思うんですね。表現はいろいろできても、教科書によって数字にそんなに差があっては望ましくない。

○教育長 確かにそうですよね。では、統計の問題は離れて、何か御質問等ございますか。

先ほど御説明の中にあつた、帝国書院が初めての地図を使うとすると、冒頭のところが見やすいとか、説明しやすいとかがありましたら、そこを具体的に。全部でなくてもいいけれども、1つか2つ、ここはいいですよというのがありましたら。

○北中教科用図書審議委員会委員 ここは、実は学校調査と審議委員会の中で評価が高かったところでした、例えば帝国書院の7ページ以降です。

今回、これまでとの一番の違いは、第3学年から地図帳を使うというところにあります。この地図の読み取り、また、地図だけではないんですけれども、統計資料も含めて、中学年の子どもにとっては難しいことです。地図というのは、1枚の中にさまざまな情報が含まれていることと、方位だとか別の要素も入ってきますので、そうしたたくさんの情報の中から必要なものを選択して集めていかなければいけない。

そうしたときに、読み取りの技能にかかわる部分を、例えば帝国書院の7ページ以降、まず「地図って何だろう」というところから入って、9ページ、「地図のやくそくごと」、見開きですね。ここで方位のことも触れています。4方位はもちろん、8方位も含めて説明して、それを実際に地図の上に落とすとどうなるか。それから11ページ、12ページ、ここは地図記号ですね。由来も含めて詳しく説明をしている。それから13、14ページで、さらに距離のことを説明しています。

学校の先生方は、その次の15、16ページ以降が使いやすいという意見が多かったです。ここは地図帳の使い方、実はこれは東京書籍もあります。13ページ、14ページです。ただ4ページで、ページ数が多いこともありますが、子どもにとっては内容としても、あるいはシンプルに読みやすい、わかりやすいという意見が多かったです。

書いてある内容に大きな差異はありませんけれども、4ページという分量を割いて詳しく説明することで、中学年であっても、絶えずここに返って大切な地図の読み取りの技能を確認し、しっかり身につけることができるという意見がございました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかに御意見、御質問ございますでしょうか。

なければ、皆さんの御意見をお伺いしたいと思います。

○菊田委員 私は、帝国のほうがいいかなと思います。

2つを比べてみると、帝国のほうシンプルで見やすいなという印象を受けます。どちらも、子どもたちのイラストが各ページに出ているんですが、先ほど情報量が多いという話が出ましたが、東書のほうのイラストは、子どもたちの動きが多いとか、持っているアイテムがいろいろあるとかで、情報量その分多くなっている感じがします。そうすると、見た目がちょっとうっとうしくなってしまうという印象を持ちます。色使いも帝国のほうより少ない色使いで、それは情報量が少なくなってしまうんですけども、山脈の様子なんかを、ぐっと情報量を減らしているんですけども、そうすることによって地図全体が見やすくなるなという印象を持ちました。

帝国の29ページの地図の中に、先ほどアジアの話、新宿にはアジアの国からたくさん子どもたちが来ているという話が出ましたが、アジアの国々の国旗を細かく表示してあって、その国から来た子どもたちが、僕たちの国だというふうに見ることができるというところはいいんじゃないのかなと思います。そんなことで、私は帝国がいいと思います。

以上です。

○今野委員 私も帝国がいいと思いました。

御説明にありましたように、端的に地図帳の使い方のときにはっきり出ましたけれども、非常に整理がされていて見やすい。それから、地図自体も色使いなども含めて見やすい。図表もそうだとということで、審議委員会の結果のとおりでいいと思いました。

以上です。

○古笛委員 私も結論としては帝国でいいと思っています。

学校調査、調査委員会、審議委員会、それぞれ帝国なんですけれども、実は個人的にはそんなに差はないと思っていて、帝国と東京書籍の地図帳、実はこの2つ、どっちか持っていると言われたら、私は帝国よりも東京書籍をもらって帰りたいかなという思いはありました。実は、統計のところなんかは字が大きいので、字が小さいとちょっと見にくいなという点があったからかもしれませんが。

それからあと、見逃しているかもしれないんですけども、世界の統計のところ、言語を紹介しているというのは、両方ありましたか。帝国もあつたでしょうか。東京書籍のほうで各国の言語を紹介していたので、自分が知らなかったのも、これはいいなと思ったところなんです。

それぞれ工夫しているし、もしかしたら子どもたちの中には、イラストが大人から見ると、ちょっとうっとうしいというふうな意見もあるけれども、親近感を持って見られるというようなこともあつたかもしれないなということで、そんなに差はないですけれども、最終的に先生方が教えやすいということなので、帝国がいいかなと思いました。

○星野委員 僕も帝国書院の地図のほうがいいかなと思いました。

まず、地図は読み慣れるということが大事でして、今、趣味の関係で国土地理院の地理院地図というのをよく見ているんですけども、それを読むためにはある程度地図の知識が必要なので、導入でつまずくと、等高線なんか誰も読まなくなっちゃうし、導入としてわかりやすいのはとてもいいことだと思います。

あと、地図の色なんですけれども、帝国書院のほうがかどうかというと薄目にできているんですね。地図ってコントラストをつけ過ぎちゃうと、実際に調べたいところが、ほかの色に引っ張られて見にくくなったりとかするので、余りコントラストは強くないほうが、僕は地図は見やすいかなと思っていますので、その点で帝国書院のほうがいいかなと思います。

○羽原委員 僕も帝国がいいと思っています。

これはさっき説明があったかと思いますが、帝国のほう、地図の見方、この導入部の表記が多様で、ページ数もたくさんある。これは3年生からになったから、余計必要な要素だと思って、その点だけでも帝国がいいなと思いました。

それで、例えば帝国の12ページ、「どの地図記号を知っているかな」というところに、温泉とか橋とか通有の説明が、これは大人になれば否応なくわかってくるが、そこが東書のほうに、大分見たんだけど見つからなかったの、その点も含めて帝国がいいと思いました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

私も帝国がいいと思いました。どなたかおっしゃっていましたが、地図の色ですよ。やっぱり見やすいですよ、帝国のほう探しやすいとか。東京書籍はコントラストが、色が濃い目で探すのに難儀する感じがしますし、御説明いただいた地図の使い方の丁寧さ、その分、もしかしたら厚くなっているのかもしれないけれども、一番初めに使うときに、地図を嫌いにならないというのが大事でしょうから、星野委員が言ったように、そういう意味で丁寧な対応をしている帝国書院がいいと思いました。

それでは、皆様のご意見にしたがって、地図については、帝国書院のものを採択の対象となる教科用図書の候補とするということで、よろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 ありがとうございます。

次に、家庭について、教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのか、御説明をいただきます。

○北中教科用図書審議委員会委員 それでは、家庭の審議、検討内容について説明をいたします。

まず学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは開隆堂で、29校中16校がA評価でした。調査委員会の調査結果は、東書と開隆堂が総合評価がAでした。

審議委員会では開隆堂をA評価としました。その理由として、全体的に単元配列や構成がよく、見開き2ページで確認できる工夫が見られる。裏表紙の「野菜の切り方」は、教科書を開かなくても確認することができ、実際の授業で役立つ。

また、審議委員会では、他社に関する意見として、東書、発展的に調べたり実践したりすることにつなげるのが期待できる内容構成となっており、児童の興味・関心を高める工夫

が見られるといった意見が挙げられました。

最終的に、審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった開隆堂をAと評価いたしました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、御意見、御質問をお願いいたします。いかがでしょうか。

では私から質問ですけれども、開隆堂のほう「野菜の切り方」が後ろに出ていていいというお話でしたけれども、ということは使い方として、料理をつくる時には、開隆堂の教科書の裏ページを置いておいて、それで見ながら切るということなのですか。私は授業を見たけれども、そういうシーンを一度も見たことはありませんけれども、いかがでしょうか。

○主任指導主事 教育委員の皆さんには、各学校の訪問を通して家庭科の授業等もごらんいただいていると思うんですけれども、当然、調理の場面などでは、火を扱ったり刃物を扱ったりするというものもあるので、机の上に何かを置いているということは、余り想定されないのかなというふうに考えています。新宿区のICT環境等を踏まえて考えれば、実際のところはそういった注意事項などについては、前面ホワイトボードのところに投影して活用するというのが現実的ですし、実際には調理台の上は、できるだけクリーンな状態にするというのが一般的な使い方だと考えます。

○教育長 ほかに御質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

よろしければ、絞り込みについての御意見をお伺いしたいと思います。

○羽原委員 僕は、どちらも非常に僅差、類似性も高いし、非常に迷うところで、調査委員会や学校の調査が迷う部分があったんだろうなと思いつつ、しかし東書にしました。

現場のほうは開隆堂のようですが、教科書としては、例えば、開隆堂の教科書の裏にあるということは、これは置けば便利かもしれないけれども、東書の130ページのほうが説明的で、こちらは輪切りとかイチョウ切りとか半月切り、このような言葉は覚えたほうがいいのかかもしれないけれども、むしろ切り方の手順みたいなことがかなり大きく出ているし、それ以外にも、アイロンとか玉結びとかミシンとか、1ページごとのページ立てが非常に説明的でわかりやすいということが1つあります。

それから、食の点からずっと見ていくと、かなりあちこちのところに分散はしていますが、東書のほうが調理について、御飯とみそ汁、朝食から1日の生活、献立というように、37ペ

ージにわたって食事をつくるプロセスに入りやすくなっている。

それから開隆堂のほうも、もちろんそれぞれのクッキングとか、御飯とみそ汁とか、ゆでる、炒めるとか、そういうような形で出ていますが、東書の37ページに対して開隆堂は25ページとやや少ない。やはり食という観点だけ見ても、身近な問題としてわかりやすさが第一かなと思って、東書を選びます。

○星野委員 私は開隆堂を選びました。

理由としまして、はっきり申しまして余り差はないかなと思っていましたが、あとは、たまたまうちの周りにいた女性陣にお話を聞いて、小学校の家庭科で習ったことで何を覚えていると言うと、包丁使いなんですね。包丁使いに関しては正直同じようなことなんですけれども、羽原委員に言わせると東書のほうがいいということなんですけれども、僕が見た感じでは余り差がないなと思ひまして、だったら現場が使いやすいのは開隆堂ということなので、そちらを選ばせていただきました。

以上です。

○古笛委員 私もこの2冊、すごく迷ったんですけれども、最終的には開隆堂ということにしました。

どちらもそれぞれいいところがあって、1つは、教科書の大きさが違うので、どっちがいいのかなというふうに思いました。大きいほうがいいのか、ちょっと小ぶりのほうがいいのかというところなんですけれども、これは結局のところ、それぞれ好みなので、特にどっちがいいということにならなかったんですけれども、内容を見たときに、さりげなく黒人の男の子か作品を持っていたりだとかというような配慮もされているところが開隆堂にもあったので、そういったところとか、それから、最終的に現場の先生方が一致して使いやすいと言っているところは、私たちから見るとそんなに差はないように見えるんですけども、何か違いがあるのかしらというようなところはありました。

本当に決め手というのは明確なものはないんですけども、よく似ているので、最終的には現場の判断に従ったというところなんです。

○今野委員 結論的には私も開隆堂がいいと思ひました。でも実際、両方とも非常にきれいな装丁で勉強しやすいなと思ひましたし、内容的にもそう変わっていないのかなと思ひます。

東京書籍のほうは大きいので、それだけ情報量がすごくあって、作業の手順も細かく出ていますけれども、逆に、たくさんのもが入っているので、子どもたちからすると、むしろ開隆堂のほうですっきり頭に入るのかもしれないなというふうに思ひました。

それと、開隆堂の例えば28ページ、整理・整とんのところで、「なぜ整理・整とんをするのだろう」という哲学的な問いかけから始まって、次のページでは「整理・整とんの手順」、5段階で整理する、こういうのを勉強しておけば、もうちょっと整理できるような人間になったかなと思いつつながら。東京書籍のほうにもあるんですけども、徹底して5段階までやっているというところですね。

それからまた、同じようなことですけども、48ページの「食べて元気に」というところで、「なぜ毎日食事をするのだろう」と、ここでもこういうダイナミックな問いかけから始まるというのは、これは子どもからするとおもしろいんじゃないかなと思いつつ、僅差ですけども、開隆堂にしました。

○菊田委員 私も結論は開隆堂にしました。

どちらも僅差なんですけれども、開隆堂の72ページ、東書の58ページに団らんのくだりがあるって、どちらも家族や親しい人ということなんですけれども、より開隆堂のほうが、家族だけではない団らんの形というのが見える感じがして、家族で団らんと言われるとちょっと困ってしまうという御家庭にとっては、集まった人たちの中で団らんがあるということ、ちょっと救いだなと思いますので、新宿はいろいろなお子さんたちがいらっしゃいますから、こういうところが使いやすいんじゃないのかなと思いつつ、それで開隆堂がいいかなと思いつつしました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

私も開隆堂がよろしいのかなというふうに思いつつしました。これと違って違うところがあるわけではないんですけども、今の子どもたちは、意外に不器用で苦手だという玉結びが、開隆堂の23ページに細かく出ていて、要するに、くるくるっとまず指で巻いて、ぎゅっとしごいてつくるところをちゃんと図示してあって、子どもたちにわかりやすいのかなというふうに思いつつしたので、私としては開隆堂にしたいと思いつつします。

それでは、現在のところ御意見は2つに分かれておりますので、これについても絞り込みは、もともと2者ですけども、1者への絞り込みは保留とさせていただいて、次回再度、説明、追加の質問等々した上で絞り込みを行いたいと思いつつんですけども、よろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 では、そうさせていただきます。



次は保健になります。御説明、よろしく願いいたします。

○北中教科用図書審議委員会委員 続いて、保健の審議、検討内容について説明いたします。

まず学校調査の結果でございます。最もA評価が多かったのは東書で、29校中14校がA評価でした。調査委員会の調査結果は東書が総合評価でAでした。

審議委員会では東書をA評価としました。その理由としては、各章において、学習の目標に向けてどのような内容を学ぶのかが見やすく図示されており、児童にとって学習の見通しが立てやすい。各章の初めの「つなげよう」では他教科との関連が示されており、カリキュラム・マネジメントの視点から見ても充実しているなどの意見が挙がりました。

また、審議委員会では、他社に関する意見として、光文、単元ごとの漫画を活用した導入など、児童の興味・関心を高める工夫がされているなどが意見として挙げられました。

最終的に、審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった東書をAと評価しました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

では、御質問等お願いいたします。いかがでしょうか。

先ほど星野委員から、がんのことについての御指摘がありましたけれども、もう一つ聞きたいんですけども、これからの大きなものに、特に高学年になったら大きくなるのかもしれないんですけども、性の自認の問題というのは、どの教科書も取り上げているのかどうか、教えていただきたい。

○小林教科用図書審議委員会委員 今回、LGBTに関する配慮がなされているかについては、審議委員会でも話題になりました。

実際に学習指導要領の改訂のときにも、特に4年生で性について学ぶときに、異性への関心が芽生えるということを学習指導要領にも表記されているんですけども、ここについてまず配慮がないんじゃないかというパブリック・コメントがあって…という、そういった議論があったこともありましたので、実際に審議委員会の中でも、各発行者、確認をさせていただきました。

発行者によっては、4年生の性差を学ぶときに、実際には異性への関心を抱くということを押さえた上で、そうでない子もいるよという配慮がなされていたり、または、5年生になって心理的に不安や悩みの対処を学ぶところで、実際にその時々の中での、そういった

性に関する悩み、自分に対する悩みということの中で取り上げている会社もございましたので、LGBT等への配慮については、実際には発行者によって大分差があるかなというところで、話題にしたところです。

○**教育長** 具体的に教えていただければありがたいんですが、3、4年生の教科書を見ればよろしいですか。

○**小林教科用図書審議委員会委員** では、まず4年生のところで丁寧に取り上げている発行者として光文書院、こちらの鉛筆書きのイラストの3、4というのをごらんいただいて、その33ページをごらんください。実際には32ページが学習指導要領の表記について学ぶところなんですけれども、よろしいでしょうか。

32ページ、33ページをお開きいただくと、今お話ししました性の違いについてということで、例えば32ページ中ほどに、思春期になると男女の性の違いに気づきやすくなります。また、異性のことが気にかかり、好きになったり仲よくしたいという思いが高まったりする一方で、反発し合うこともありますというような形で、異性への関心について触れられています。また、右側に、異性については、女子から男子のことを、男子から女子のことを異性と言いますということで、解説がなされています。こういった異性についての解説というのは、他社も同じようになされています。

ただ、33ページをごらんいただきますと、「さらに広げよう深めよう」の中ほどに、性についての悩みということで、皆さんの中には、自分の体の性と心の性が違う気がすると感じる人や、異性に関心が持てないと感じる人がいるかもしれませんといったような配慮がなされているという表記もございます。

また、文教社の「わたしたちの保健5・6年」では、不安や悩みへの対処というところで、12ページをごらんください。12ページの下発展のところですね。寄り添うことの大切さ、相手を理解するために知ってほしいことというところで、以前、私は女の子から、先生、女らしさって何ですか、私は大きくなったら男の子になると思っていました、女の子の服は着たくありませんと。これは実際、高学年になって中学校への進学を考えると、必ず話題になるような部分なんですけれども、こういったところを取り上げている教科書がございます。こういったところが丁寧な配慮がされているかなというところで、審議の経過で扱われたものになりますので、御紹介をさせていただきます。

○**教育長** その点、評価の高い東京書籍では、どういう取り扱いになっていますか。

○**小林教科用図書審議委員会委員** 東京書籍については、まず3、4年生の教科用図書をごら

んいただきたいんですけども、こちらについては、異性への関心について示されているのは35ページになります。35ページでは、思春期には心にも変化があらわれ、異性のことが気になったり、仲よくしたいという気持ちが高まったりしますということで、この近辺を見る限り、そういった表記はないのではないかなというような審議の中での議論はございました。

○教育長 説明が終わりましたが、ほかに御質問等ある方はいらっしゃいますでしょうか。

○羽原委員 昔から大体、そういう体の変化については4年生で取り上げられるんですか。

○小林教科用図書審議委員会委員 おっしゃるとおりです。

○教育長 だから、どの教科書でも4年生で、触れ方は違うけれども、取り扱っているということですよ。

ほかに何かございますでしょうか。

よろしければ、それでは羽原委員からご意見を伺います。

○羽原委員 これも東書を推します。

健康とか体の発育、心の健康、けが、病気の防止、5、6年の教科書では非常にバランスがとれていて、各項目、ほかの社よりもちょっと多いという感じがして、そう大差があるという意味での選び方ではないんですが、2番手についた光文よりもバランスがとれていいかなということで、東書を推します。

○星野委員 私は、最終的には光文書院を推させていただきます。

まず、理由としましては、各項目ちょっと長くなるかもしれないんですけども、がん教育に関しましては、内容としては学研が一番詳しいと思います。ただ、小学校で扱うには、児童がすぐがんになるというよりは、生活習慣が大事であるとか、がんの罹患率は高く2人に1人はなるとか、あとは検診を受ければ早く見つかる可能性がある、早期発見すれば治療できる可能性があるというのは、本人の問題ではなくて家族と共有する知識だと思しますので、その程度であればいいかなと思いましたので、その程度は書いてあるものがないかなと思いました。

あとは、成長とか思春期に関しましては、思春期を迎えた子で何が不安なのかなということを見ると、人との差を意識する部分が多いかなということで、初経や精通などの時期の個人差を示したものは安心の材料になるかなと判断しまして、それが載っているものがないかなと判断しました。

あと、生活習慣病に関しましては、啓発という意味が主だと思うんですけども、中には小児期発症というものもあるという表記がありましたけれども、実際には小児期より進行す

るものというのが本当は正しい表現だと思います。小児期から進行して、成人期に病気が顕著になるというのが正しいかなと思うんですけども、そういう表現はなかったんですが、何か書いてあったほうがいいかなと。

あと、アルコールに関しましては、酒量によって変化が出るような表記がありましたけれども、これもかなり個人差があるものなので、ちょっと飲むくらいなら大丈夫という認識を与えるよりは、少し飲んだだけでもおかしくなる人がいるよというようなことを考えたほうがいいかなと思いました。

薬物乱用に関して、これははっきり言って、お子さんにはすごくわかりにくい問題だと思うんですけども、実際に渦巻きを書くのが書けなくなるということを冗談抜きで自分でやってみて、こんなふうになっちゃうんだということが具体的にわかるので、そういう表記があったほうがいいかなと思いました。そういうことを多く網羅しているのは光文ではないかなと思いました。

また、スマートフォンに関してはかなり突っ込んだ内容で書いてありまして、これから学校への持ち込みとか、あとは通学とか災害時への利用という点で、スマートフォンを持たせる機会がふえてくる可能性もありますので、その辺ではある程度取り上げていただいたことが評価できるかなと。

あと、LGBTに関しましては、触れるのがいいのか悪いのかは難しいところですけども、さらっと触れるくらいはいいかなということで、この程度の表記はあってもいいかなと思いました。

ただ、ちょっと残念なのが、鳥インフルエンザと新型インフルエンザの表記でちょっと混同している部分がありまして、医学的には、新型インフルエンザと鳥インフルエンザは全く別の病気ですので、その辺がちょっと誤解させるような記述があったのが残念かなと思っています。

あと、各社が取り入れた手洗いの方法が、光文に関しては絵しかないんですけども、これに関しては、新宿区の誇るICTを使って動画でも流せばいいかなと思うので、その辺はいいかなと思いました。

その辺で、最終的に総合評価で、僕は光文を推すことにいたしました。

○古笛委員 私は東書にしました。

それぞれの教科書はおもしろかったんですけども、東書が、ステップ1、2、3というふうに徐々に難しい内容に入っていくって、そして最後に資料というものがついていて、この

資料が、大人が読んでもおもしろいような内容が書かれていました。もちろん他の教科書にも載っているんですけども、体系的に1、2、3、資料という形のほうが、例えば光文だと、「さらに広げよう深めよう」というところで、いろいろまとめて載っているんですけども、それよりは、それぞれ単元ごとに資料がついているというのがわかりやすいかなというふうに思いました。

内容に関しては、それほど大きな違いはないというふうに思います。LGBTの問題についての書き方は、全体を通して書いているところと書いていないところというのはあったんですけども、その意味では、東書はそれほど触れてはいないんですけども、またそこは将来的に考えたいなと思いますが、今回は東書でいいかなと思いました。

○今野委員 私も東書がいいと思いました。

全体の教科書を通じて、一番最初に「心の健康」と。そういう時代なんだなと。自分たちが子どものときには、けがとか病気というふうなことだけしか覚えていないんですけども、今にとっては「心の健康」ということがとても時代的な課題で、そこを中心に見たんですけども、ほかに比べて東京書籍のほうは、ページ数自体が多いこともあるんですけども、非常に充実した感じを受けました。

例えば「不安や悩みがあるとき」、13ページ以降ですけども、対処方法、いろいろ自分で調べながら、こういうふうなことで客観的に見て考えていきましょうと。それから対応方策としては、ほかでも出てはいますが、リラックスしたり、呼吸法、運動、それからさらに、自分の気持ちを上手に伝えるにはどうしたらいいかということまで含めて深めていますし、とても充実して、子どもは学習しやすいなという気がしましたので、東書がいいと思いました。

以上です。

○菊田委員 私は光文がいいかなと思います。

子どものころを思い出すと、課題意識のない学びって本当に退屈だったなというふうにも思っていて、そういう視点で学校を回らせていただくことがよくあります。きょう今時に何を勉強しているのかよくわからないという子たちは苦しいだろうなと思いつつも、いつも教室を見させていただいています。

そういう意味で、光文ですけども、最初の漫画の導入が、自分に引き寄せて課題意識を与えているところがすごくおもしろいなと思いついて、こういうふうに進んでいくと、勉強してみようかなと思えるなと、そういう課題の与え方だなと思いついて、光文はいいなと思

ったんです。

先ほどのLGBTの話ですけれども、33ページなんですけど、これぐらいのボリュームで捉えてくれると、これって隅っこの小さい特別な問題じゃなくて、結構ある問題なんだというふうに見えるんじゃないかなと思ひまして、これぐらい扱ってくれていて、いろいろな人がいるんだということがわかっていいなと思ひます。体の変化については年齢差もあるということが32ページに書かれているんですけども、いろいろな人がいるなということの気づきが、こういうページにあらわれていて、いいなと思ひました。

それで、動画がよくて、例えば3、4年の30ページにQRコードがあつて、女性の体がどんなふうに進達していくかというのをかなりシンプルな動画で示していて、そういう動画はいいなと思ひます。

さきほどの手洗いの話も、17ページだったと思うんですけども、ここには、手のばい菌がどれぐらいふえていくか、手を洗ったときと手を洗っていないときのばい菌のふえ方について、わーっとばい菌がふえていく動画が入っていて、そんなのを見ると、気持ち悪いという、それが自分の学びの意識になっていくなというふうにおもひまして、光文がいいと思ひます。

以上です。

○教育長 私も結論から言うと光文がいいと思ひます。

1つは、私が質問した性の悩みみたいなのところの取り扱いが、光文が納得性があるかなと。あと、悩んだときにどうすればいいといったならば、生活習慣を正しましょうって、それって何なのよと。それで悩みが直るのか。気にしないでとか、それはちょっと違うんじゃないかなという感じがします。

とにかく一番大きいのは、思春期、3、4年生で性の進達のことをやるというのは、印象としては、私なんかはない感じなんだけれども、でも今の子どもたちはそういうことなんでしょうし、光文の「よりそいホットライン」と言つて、悩みがあつたらここに相談してねという、入れたあたりもいいかなというふうにおもひまして、私は光文を推したいと思ひます。

ということで、保健についても、1種に絞り込めませんでしたので、これについては光文と東京書籍の2種ということになっていますので、この2種の中から改めて絞り込みをさせていたいただきたいと思ひますが、よろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 ありがとうございます。では、そのようにさせていただきます。

以上で、本日の協議は終了いたしますが、事務局から何かありますでしょうか。

○教育調整課長 特にございません。

---

◎ 閉 会

○教育長 ありがとうございます。

それでは、本日の教育委員会を閉会といたします。

---

午後 3時50分閉会